

面

123

バガテルX I

網 野 月 を

ジ
ッ
パーに挟まる髪や母子昔
砂を噛む病となりぬ啄木忌
親指は四指を包みて風ぐるま
新人は割箸のごと竹の秋
満福の焼飯恋えば春の鳳
温かいものをください桜の夜
目借時拾ってしまいう捨て台詞
蜷の道しかし相対性理論
平成に最後の立夏水潔し
柿若葉カラフエに残る白ワイン

濡 燕

上 田 玄

糸とんぼ

水の奥から

涙を

掬う

*

勾玉に

鱗

背中合わせの

冬さなぎ

姉蒙し

鉦の

香を持つ

腕の中

*

鴉一叫

誰から

横死する

野に放つ

声

ひとかどの

翌檜に

*

濡燕

死者の

ひとりの

肩を飛ぶ

水琴窟

衣 斐 ち づ 子

岐阜蝶や岐阜に生れて岐阜知らず
ギターリストの楽屋に届く筍煮
野菜苗いろいろうえて空見上ぐ
いずれひとり煙雨の池に残る鴨
「お茶をどうぞ」庭師の肩に尺蠖が
そこここに空蟬だらけ鎮守さま
繭の実に八羽も来たり緋連雀
すぐそばに土竜いるらし水琴窟
鬼瓦を叩く鵲鴿留守の寺
水仙を摘んで束ねて誕生日

鬆のやうに

岡 田 一 夫

買初の煙の出ない葎かな
悴んで鍵穴はテロの近道
細魚並べて金正恩似の男
雪山から戻りカラーコピーかな
浮くやうに湧くやうに白はなみづき
落とさずに運ぶ頭や萬愚節
自らの影に花種蒔いて老ゆ
あやふやな集合時間蕨狩
行く春や夕べの姉にカカオの香
訃報くる夏大根の鬆のやうに

一口あはび

高 橋 龍

核の罪語りて尽きぬ緑星忌（窓秋忌）
早乙女の股のぬくもりサドルにも
赤き鉄鎖白い夏野に横たはる
滝の上に空現れて晴れにけり
似てゐると言へぬ一口あはびかな
諸説ある中のひとつの青嵐
円卓にだれのももでもない桃を
崔^{なでしこ}麥の十一本もありに蹴り
山川に秋／蟬丸を蟬翁は
周^{とろ}縁^{まき}は濁音のエロテイズム中^ひ心^め